

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	男鹿市
------	-----

年度	令和5年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<p>【介護予防の充実】</p> <p>9月末時点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き生き介護予防教室 目標（年間）：開催回数 33 回、参加延人数 330 人 実績：開催回数 12 回、参加延人数 92 人 ・セルフケア講座 目標（年間）：開催回数 48 回、参加延人数 672 人 実績：開催回数 32 回、参加延人数 326 人 ・アクア健康教室 目標（年間）：開催回数 7 回、参加延人数 245 人 実績：開催回数 7 回、参加延人数 107 人 ・介護予防自主グループ活動支援事業 目標（年間）：グループ数 23 箇所、参加延人数 300 人 実績：- ・介護予防ボランティア養成講座 目標（年間）：開催回数 2 回、参加実人数 25 人 実績：無し
<p>自己評価結果 【C（5段階評価）】</p> <p>※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア講座は、地域の会場を利用することで参加者同士が声を掛け合い、参加される様子がみられており、参加者、地域の介護予防への関心の高まりを感じている。 ・介護予防自主グループ活動支援事業については、年度途中での数値は出していない。 ・介護予防ボランティア養成講座は、今後開催を予定。 ・開催回数はおおむね達成できているが、参加延べ人数が半数に満たなかった。 <p>以上を総合的に勘案し、評価を標準の「C」とした。</p>
<p>課題と対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア講座では、事業終了後の自主グループの立ち上げに向け、参加者へ促していく。 ・今後も市広報や民生委員の地区の会議で周知をしていく。

後期（実績評価）

実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・生き生き介護予防教室 ・セルフケア講座 ・アクア健康教室 ・介護予防自主グループ活動支援事業 ・介護予防ボランティア養成講座 	<p>目標：開催回数 33 回、参加延人数 330 人 実績：開催回数 23 回、参加延人数 173 人 達成状況：開催回数 69.7% 参加延人数 52.4%</p> <p>目標：開催回数 48 回、参加延人数 672 人 実績：開催回数 48 回、参加延人数 502 人 達成状況：開催回数 100% 参加延人数 74.7%</p> <p>目標：開催回数 7 回、参加延人数 245 人 実績：開催回数 7 回、参加延人数 107 人 達成状況：開催回数 100% 参加延人数 43.7%</p> <p>目標：グループ数 23 箇所、参加延人数 300 人 実績：グループ数 21 箇所、参加延人数 195 人 達成状況：グループ数 91.3% 参加延人数 65.0%</p> <p>目標：開催回数 2 回、参加実人数 25 人 実績：開催回数 2 回、参加実人数 7 人 達成状況：開催回数 100% 参加実人数 28%</p>
自己評価結果 【B（5段階評価）】	
<p>※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p>	
<p>目標達成率：全体の平均 72.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア講座については、昨年度と開催回数は同じで、参加延べ人員はわずかに下回ったが、自主グループも一箇所立ち上げることができ、事業効果が見られる。 ・主観的健康調査では、訪問型サービス並びに通所型サービスの利用者を対象に実施したところ、訪問型・通所型ともに「改善」が35%以上、「改善」・「維持」を合わせると、88%以上となった。 <p>自主グループが増加していることで、市民の介護予防に寄与していることから、評価を「B」とした。</p>	
課題と対応策	
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のほとんどが女性で、男性参加者が少ない傾向にある。地域や家族が互いに誘い合っていて、男性も参加しやすい雰囲気づくりを検討する必要がある。 ・アクア健康教室の参加者は令和4年度から増加傾向にある。引き続き事業周知の強化に努めていく。 	

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	男鹿市
------	-----

年度	令和5年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<p>【認知症施策の推進】</p> <p>9月末時点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター養成講座 目標（年間）：受講者数 260 人 実績：受講者数 6 人（2回） （前年度9月末時点 27 人（2回）） ・ 認知症サポーターステップアップ講座 目標（年間）：受講者数 50 人 実績：受講者数 0 人（0回） （前年度9月末時点 6 人（1回）） ・ チームオレンジの立ち上げ 令和5年8月に1箇所立ち上げた。 ・ 認知症カフェの運営支援
自己評価結果 【B（5段階評価）】
<p>※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター養成講座は、9月までにチームオレンジと市内地区1箇所で開催した。 ・ 認知症サポーターステップアップ講座は、今後開催予定。 ・ チームオレンジは、令和5年8月に1箇所立ち上げることができた（県内5番目） ・ 認知症カフェの運営支援は、助言を行うほか広報で周知を図った。 <p>チームオレンジの立ち上げで、市民の自主性がより発揮される状況になったことから、評価を「B」とした。</p>
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症早期発見や支援体制についての広報啓発活動に関しては、計画的に実施していく必要がある。 ・ 認知高齢者は、当面増え続けると予想されることから、認知症サポーター養成講座を幅広い対象者に実施し、認知症に対する正しい知識と理解を促進し、サポーター数の増加を目指す。

後期（実績評価）

実施内容

【認知症施策の推進】

3月末時点

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター養成講座 | <p>目標（年間）：受講者数 260 人
 実績：受講者数 155 人（前年度 233 人）
 開催回数 12 回（前年度 20 回）
 達成状況：59.6%</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーターステップアップ講座 | <p>目標（年間）：受講者数：50 人
 実績：受講者数：0 人（前年度 6 人）
 開催回数 0 回（前年度 1 回）
 達成状況：0%</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ チームオレンジの立ち上げ | <p>立ち上げ：1 箇所</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェの運営支援 | <p>実績 支援回数：5 回 参加者数：55 人
 （前年度 支援回数：5 回 参加者数 48 人）</p> |

自己評価結果 【B 5段階評価】

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

- ・ 認知症についての広報啓発は、9月広報にチームオレンジ発足の記事と、認知症に関する相談窓口の紹介を行った。
- ・ 認知症サポーター養成講座は、受講数は目標には達しなかったものの、中高校生、市職員、地域住民など幅広い対象者に対して開催することができた。
- ・ 認知症サポーターステップアップ講座は計画したものの、実際の申込者が対象外などにより開催が出来なかった。
- ・ チームオレンジは、令和5年8月に1箇所立ち上げることができた（県内5番目）
- ・ 認知症カフェの運営支援は、年間を通じて開催時に出向き助言等支援を行った。
- ・ 養成講座は目標に達しなかったが、チームオレンジが発足したことにより、認知症に対する正しい理解が進み、施策の推進が進むと考えられる。以上を総合的に勘案し評価を「B」とした。

課題と対応策

- ・ 広報啓発については、市広報やテレビ回覧版などを活用し、他事業とも連携するなど市民に対して幅広く周知することが必要である。
- ・ 地域において認知症に対する正しい知識と理解をさらに促進するために、サポーター養成講座、ステップアップ講座とも受講者数を増やしていく必要がある。
 対応策として①幅広く、講座を受けていない事業所等に講座の開催を勧奨する
 ②認知症サポーターにステップアップ講座を案内する など
- ・ チームオレンジや認知症カフェに対する支援を継続的に行っていく。

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	男鹿市
------	-----

年度	令和5年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
<p>【安心して暮らせるまちづくりの推進】</p> <p>9月末時点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備事業の年間計画に沿った進捗状況 第2層生活支援コーディネーターを新規に配置し、計画通りに協議体や通いの場の把握を行う。 ・介護サービス課及び地域包括支援センターが事務局となって開催する会議の開催状況 生活支援体制整備推進協議体（10月以降開催予定）、地域ケア会議（6回）
自己評価結果 【B】
<p>※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備事業については第2層生活支援コーディネーターを配置し、計画通りに通いの場の把握や協議体を実施している。（協議体は今後開催予定） ・介護サービス課及び地域包括支援センターが事務局となって開催する会議については、概ね予定通り開催できた。 市民から多くの意見を聞くことができたことから、評価を「B」とした。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備事業にて第2層より市民からの様々な意見が報告されているため、その意見を分類化し、今後の取組に活かしていく。 ・各会議で話し合われている内容や課題を集約し、取組むべきことを把握し、取組方針につなげるなど、連動させてまちづくりにつなげていくことが必要。

後期（実績評価）

実施内容

- ・生活支援体制整備事業の進捗状況
（協議体 年2回、第2層）
- ・地域ケア会議 目標 開催回数 12回（個別ケア会議 10回、地域ケア推進会議 2回）
実績 開催回数 12回（個別ケア会議 10回 地域ケア推進会議 2回）
達成状況 個別ケア会議 100% 地域ケア推進会議 100%
- ・地域包括ケアシステム推進事業実施による、次期制度改正や第9期介護保険事業計画に向けて、男鹿市で高齢者が最後まで暮らし続けることを支えるためのケアマネジメント支援を目的とした介護支援専門員向けの研修会とワークショップを開催した。
- ・地域包括ケアシステム推進会議 目標 開催回数 1回
実績 開催回数 1回
達成状況 100%

自己評価結果 【B（5段階評価）】

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

- ・介護サービス課及び地域包括支援センターが事務局となって開催する会議については、概ね予定通り開催し、それぞれの会議で話し合われている内容、課題、取組方針などを連動させて、次年度の事業へ反映させるよう努めた。
- ・生活支援体制整備事業においては、「住み慣れた地域でいつまでも自立した生活を続けていくために必要な生活支援サービスを考える」をテーマに、座談会を開催し、各圏域に必要な自立支援に向けた生活支援ニーズや、各圏域の生活支援サービスの担い手などの社会資源の把握に努めた。
多くの意見を、実際の動きに結びつけるという気運の高まりにつながっていることから、評価を「B」とした。

課題と対応策

- ・各会議で出た課題や意見の共有を図るとともに、地域の実情に応じた施策の検討を行う必要がある。